

「分かち合いの会・ひかり」

発行責任者：植村ヨシ子

編集担当者：妹尾拓哉

発行日：2024年4月 No.12

私の人生意識

『歴史意識とは——しまった、とんでもないことをしてしまった、どうしようという悶(もた)えだ。』

—小林秀雄【こばやし・ひでお】

(文芸評論家-1902～1983)

この言葉からイメージされるのは、例えば、一兵卒が誤って発砲したことで大戦争が始まってしまう場合や、ある政治的な決断が国家や社会に重大な危機をもたらす場合などであろうか。

しかし、そのような壮大な問題ではなくて個々人の人生についても、これは当てはまるように思える。あんなことを言う/するのではなかった、こんなことを言えば/すればよかった、とついつい思い悩んでしまう。私の人生意識とは——しまった、とんでもないことをしてしまった、どうしよう、大切なあの人はもういない中、今日そして明日をどのように生きて行こうか、という悶えの連続である。

(妹尾拓哉)



闘病生活

令和5年8月26日、重度の脳梗塞に襲われた。救急で運ばれ即入院。左麻痺で全く歩けない。

1ヶ月経ち転院。リハビリ病院では6ヶ月間の加療で、言語、上半身、下半身の過酷なリハビリに取り組んでいる。担当医はベテランで良い指導者に恵まれた。誰かの手を借りないと生きていけない。「人さまの後ろ姿に感謝」、「当たり前が当たり前でない」ことに気づかされる。病の知らせを受け駆けつけてくれたのは【同志】。同志は「分かち合いの会に参加して、気持ちが楽になった」と喜びの報告をしてくれた。旧友は、「命があることは、まだ、お役目があるということですよ」と励ましてくれた。休会することなく、副代表を始め、スタッフの皆様が動いて下さっていることに感謝のみ。

私の命がある限り存続させる。過酷なリハビリは、良い脚を軸定とするので激痛が走る。指導医は「褒める」ことを中心としている。彼が休みで代行のときは、同じことをしていても出来ない。

その違いは実習生も感じている。【人格・真心・エネルギー・天啓】である。彼は、全身全霊、誠心誠意、患者に寄り添い、患者が良くなったら自分のことのように喜ぶ。【共有・共感】したいからであろう。

オーラ、ハートが伝わってくる。【イメージトレーニング】、「歩いている姿をイメージしなさい」という。その人に合った対処の仕方指導をしている。

私は4月になったら何がなんでも家に帰る。

そして社会復帰をする。

(ひかり代表・植村ヨシ子)

分かち合いの会・ひかり in 池田 →

定例会・毎月第三土曜日

分かち合いの会・ひかり in 豊中 →

定例会・毎月第二土曜日

いずれも午後2時から、事前の申し込み不要、参加費は無料。

問い合わせ先：植村ヨシ子(代表)

電話：080-3858-2954



←ひかりのウェブサイト